

◀編集作業は広報委員会のみんな
で。負担が一人にかからないように
得意分野を生かし、楽しみながら編
集にあたります。

◀学校行事は子どもたちの活動が直
接見られる貴重な場所。保護者にも
積極的に行事に参加してもらえるよ
うに呼びかける。



Public relations
OZU TOWN

広報おおづ 2018 6

発行・編集 大津市・総務課
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

2100 印刷 株式会社
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

UD FONT
易やすく読みまちがえにくい
コンピューターフォント
を採用しています。



「全ては『見てもらい伝える』 ために」

県立大津高等学校PTA・広報委員会

たしろゆきみ 田代幸美さん
とりまるまゆみ 鳥丸真由美さん
うえふじつよし 上藤剛志さん
いまむらけんじ 今村健二さん

2017年度熊日新聞コンクール「広報PTA新聞の部」のグランプリ、熊日賞に輝いた大津高校PTAをクローズアップする。同校PTAを代表して4人に話を聞いた。

大津高のPTA会誌として年4回発行され、毎回約1,200部を配布する「いちよう」。大津高校へ通う生徒の保護者を対象に郵送されている。3月1日発行で154号目が発行された。製作はPTAの中から選ばれた広報委員の12人(2017年度)。

「読む会誌から、見る会誌を心がけて作成しました」と語るのはグランプリ受賞時の広報委員長の鳥丸真由美さん。会誌を一から見直し、大幅リニューアルをしたことがこのたびの快挙につながったと振り返る。表紙デザインの変更やフルカラー化。紙質にもこだわり、レイアウトも見直した。保護者の手元に確実に届けるために成績表と一緒に郵送するようにもした。「全ては『見てもらい伝える』ために」と同委員会内で何度も議論を重ねたという。

「会誌を見れば、私たち保護者目線から見た子どもたちの姿が見てもらえると思います。大切なのは同じ目線に立つこと」と話すのは昨年までは委員として会誌に関わり、今年から広報委員長に推薦された田代幸美さん。

「子どもたちの生き生きとした表情がたくさん見られるので、会誌が親子の会話のきっかけになればうれしい」と前PTA会長の今村健二さんが笑顔で語る。

思い出は一生もの。その一瞬を切り取った「いちよう」は、当事者の思いだけでなく、当時の様子を知る資料。そして、時には未来への道しるべにもなる。

新PTA会長の上藤剛志さんは「子どもたちの頑張りを直接見る機会は成長とともに減っていきます。なかなか学校に来られない人にもその姿を会誌を通して感じて欲しい。それが学校を、地域を好きになる入り口になると思います」と熱く語る。

思うだけでは伝わらない、誰もが持つ温かい心を「伝える」ことの大切さをあらためて感じた。

からいもくん便り
大津町総合情報メール

携帯電話やパソコンのメール機能を活用して、生活に役立つさまざまな情報をお知らせするシステムです。

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。

QRコード

「同じ目線大事ですね。一人の立場に立つて物事を考えなさい」小さい頃から両親に、先生に、先輩に言われ続けている言葉です。▼広報を作る身として、役職員として、一番大切なことだと思います。▼上の取材ではその一番大切で一番難しいことを改めて勉強させていただきまして。▼今の勉強できる環境に感謝と自身の至らなさに反省の日々です(MIDEO)。

▼日に日に暑くなってきました。4月のつじ祭りも暑い中での開催でしたが、暑さに負けない元気な子どもたちの姿を見て、私も元気をもらいました。町の元気を皆さんに届けられるよう、精進してまいります(UD)。

こころの声

大津のことがもっと好きになる情報誌

おおづ

広報

6

JUNE 2018



もしもに備える



今月のみどころ
平成30年度行政区囑託員の皆さんをご紹介します
新連載 人権シリーズ企画 きらめく男女

注意